

# ステロイド外用薬とは？

監修：近畿大学医学部 皮膚科学教室 主任教授 大塚 篤司 先生

## ●ステロイドとは

ステロイド外用薬に使われるステロイドとは、ヒトの体で作られるステロイドホルモンを合成したものです。ステロイドホルモンは副腎という腎臓の上に存在する小さな臓器で産生されます。ステロイドホルモンには生体に必要な様々な作用がありますが、働きの一つに炎症を抑える効果があります。この効果を利用したのがステロイド外用薬です。1948年、ステロイドを投与された寝たきりの関節リウマチ患者さんが歩けるようになったことで世界的な注目を集めました。1950年には、ステロイドの医療応用に貢献した3名の科学者がノーベル賞を受賞しました。外用薬としてステロイドが用いられるようになったのは1952年のことから、それから70年以上臨床の現場で使われている薬剤です。そのため、安全な使い方や副作用など十分に知られた薬剤になります。現在、ステロイド外用薬は薬効により5段階に分けられます。湿疹の状態や年齢、体の部位によってステロイド外用薬のランクは変わります。一般的に顔や陰部などの皮膚の薄い部分には弱いランクのステロイド外用薬を使用します。また、炎症が強い部分には強いランクのステロイド外用薬が用いられます。

## ●ステロイド外用薬のランクと薬の強さ



## ●ステロイド外用薬の副作用と、誤解されやすい症状

ステロイド外用薬の副作用としては、皮膚が薄くなる、毛細血管が拡張する、紫色の斑点ができる、かぶれ、薬を塗った部分に毛が生える、にきびが悪化する、などが挙げられます。一方、ステロイド外用薬の副作用と誤解されている症状もあります。

まず、ステロイド外用薬によって、塗った部分の皮膚の色が黒くなることはありません。ステロイド外用薬は皮膚の炎症を抑える薬です。例えるならば、湿疹は皮膚で起きた火事で、ステロイド外用薬は消防車の役割をします。色が黒くなるのは湿疹(火事)のせいであってステロイド(消防車)のせいではありません。

また、ステロイド外用薬による副作用は、ステロイド内服薬による副作用としばしば混同されます。一般的にステロイド外用薬の使用によって全身性の副作用は起きないとされています。ただし、使用量が増えると副腎機能抑制が起きる可能性もあります。ステロイド外用薬の使用量については主治医の指示に従ってください。